



TOPIC 4

NPO活動 啓発・応援 「フリーマーケット」の事業評価と展望

2022年7月～11月に計4回、門真市内でNPO(市民)活動をしている団体の啓発や、活動を応援することを目的に、市民公益活動支援センターの「フリースペース」を活用し、フリーマーケットを開催しました。当初の予想より、来場者数は伸びませんでした。普段、市民公益活動支援センターへお越しにならない市民の方も来られ、出店団体の方とお話が弾む場面も見受けられました。

- ◆開催日
 - 7/10(日)10:00～13:00 (来訪者数 29名)
 - 9/11(日)10:00～15:00 (来訪者数 211名)
 - 10/9(日)10:00～13:00 (来訪者数 89名)
 - 11/13(日)10:00～13:00 (来訪者数 209名)



- ◆場 所 門真市立市民公益活動支援センター フリースペース(市民プラザ3階)
- ◆出店団体 門真市内でNPO(市民)活動をしている団体
- ◆出店団体の感想

オリジナルチラシと恐竜作戦で若い男性陣が企画から運営まで挑みました。子供たちを中心として興味を持ってもらい賑やかになりました。「えがお」で運営できたこともあり、市民公益活動支援センターさんや他の出店団体の人たちに応援してもらい、いい経験ができました。これからも、仮装に乞うご期待!!(NPO法人里親子支援機関えがお 玉城さん・吉岡さん)

◆市民公益活動支援センターの事業評価

- ①効果
 - ・出店団体同士の新たな交流が生まれた。
 - ・NPO(市民)活動団体の活動を、市民に知ってもらう機会となった。
 - ・市民公益活動支援センターの存在を、市民に知ってもらうことができた。
- ②課題(改善点)
 - ・来場者数が伸びなかった要因として、イベントの周知方法に課題が残ったので、より多くの市民に知ってもらう方法を検討する必要がある。
 - ・市民プラザ内で同時開催されている、他のイベントとの情報共有をおこない、相互に協力できる体制づくりが必要である。
 - ・多様な世代が来場するためにも、出店内容を充実させることが必要である。



◆展望 様々な意見を参考に、多くの市民の皆さんに足を運んで頂き、NPO(市民)活動団体と多くの市民が交流できる「NPO活動 啓発・応援フリーマーケット」を作っていきたいと考えています。

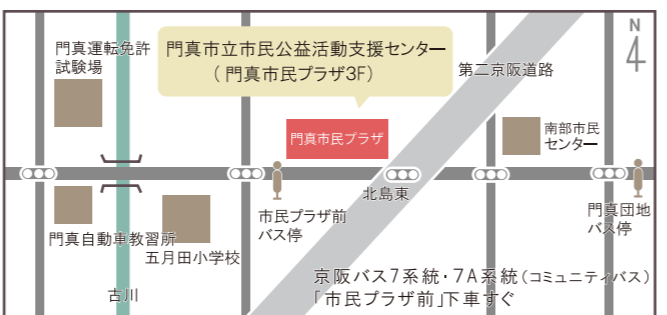
市民公益活動支援センターは、「非営利」かつ「不特定多数の利益」となる、市民公益活動をサポートしています。

門真市立市民公益活動支援センター (指定管理者) 特定非営利活動法人 大阪NPOセンター

住 所 : 〒571-0025 門真市大字北島546番地
門真市民プラザ3階

T E L : 072-800-7431
F A X : 072-800-7432
メー ル : ko-eki-c@aquac.ocn.ne.jp

開館時間 : 9:00～21:30
休 館 日 : 毎週木曜、年末年始(12/29～1/3)
ホームページ : www.kadoma-koeki-cnt.com



Access

- ・京阪バス7系統・7A系統(コミュニティバス)「市民プラザ前」下車すぐ
- ・京阪本線「古川橋」駅(北口)からバスで約15分
- ・地下鉄長堀鶴見緑地線「門真南」駅からバスで約16分



※警報などの発令により、開館状況が変更となる場合がありますので、詳しくはホームページをご確認ください。

公益times

～PUBLIC INTEREST TIMES～



門真市立市民公益活動支援センター

TOPIC 1

市民公益活動支援センター 「登録団体リレー講座」を開催しました

登録団体リレー講座(11月)は、「国際的文化教育活動推進・支援団体 ALPHA」酒井幸子さんに講師をして頂き、「異文化理解」について学び合いました。

異文化(intercultural)は、私たちの生活に身近なところにもあり、例えば、雑煮などの食文化や、方言などの言葉などが挙げられます。つまり、文化(culture)とは、それぞれが生きてきた地域や家族などの集団の中で、学んできたものなのです。

ちなみに、interculturalを日本語では、「異文化」と訳されていますが、原語を考察すると、「inter:相互的な」「culture:文化」となるので、本来ならば「intercultural:相互文化(交流)」と解されます。つまり、異文化理解とは、他者との異なりを知り、他者とは違う自分を知ることなのです。



TOPIC 2

市民公益活動に役立つ「ICT講座」を開催しました

ICT講座(12月)は、新たなコミュニティをキーワードに、バーチャルリアリティ(VR)の体験会を「マチ門NET」難波友範さん講師のもと行いました。

VRは、人と人とをつなぐコミュニケーションツールとして活用できることを理解した上で、参加者にVRを体験してもらいました。みなさんVRの世界にのめりこんだように、講座終了時間ギリギリまで、VRの体験をしていました。

お子さんも参加されており、大人の参加者との年齢の差を気にせず一緒に楽しめる、笑い声に溢れた講座になりました。



TOPIC 3

今年も開催「地域資源セミナー～知る・見る・掘る～
『門真れんこん』のルーツと現状」



多くの市民が、門真の資源を認知することを通じ、市民公益活動を担う人材育成へとつなげていくことを目的に、2022年12月11日(日)10:00～13:00、「地域資源セミナー～知る・見る・掘る～『門真れんこん』のルーツと現状」を開催しました。

(1)座学「門真れんこん」の歴史

「門真れんこん」について調査・研究をしている、「縄文 e.m.工房」酒井則之さんを講師にお迎えし、「門真れんこん」についてスライドをもちいてお話し頂きました。

「門真れんこん」についての平安時代から現代にいたるまでのお話や、現在は、栽培面積が減少していること、地元の特産品を盛り上げようという機運が高まっている、とのことでした。

今回は、お子さんも多く参加しているということで、オリジナルの紙芝居「門真民話 門真れんこんと御用提灯」を披露して下さり、わかりやすい絵と内容に、参加者のみなさんは熱心に耳を傾けていました。



(2)体験「門真れんこん」掘り

市民公益活動支援センターがある市民プラザの南側に、門真市シルバー人材センターさんが「伝統野菜栽培促進活用事業」の一環で「門真れんこん」を栽培している蓮畑があり、参加者は、胴長靴と長手袋を着用し蓮畑に向かいました。

蓮畑に到着し、講師の「門真市シルバー人材センター」曾根鶴夫さんに、掘り方のレクチャーを受け、恐る恐る蓮畑に入りました。蓮畑は、粘土質で泥が重く、なかなか自由に身動きがとれません。「門真れんこん」は地中深くにある為、クワやスキなどの農機具を使い掘り出していくのですが、探し出すにもひと苦勞です。加えて、傷つけたり折ったりすると、中に泥が入り商品価値が下がるので、丁寧に掘り出さなくてはなりません。

参加者のみなさんは、泥に足を取られたりしながらも、「じっくりと時間をかけて協力して掘り出すことができる」と、喜びの歓声と拍手が沸き起こっていました。

(3)「門真れんこん」の試食

「門真市シルバー人材センター」女性活躍委員会(代表:鈴木美佐子さん)のみなさんに、「門真れんこん」の天ぷら(カレー味・ゆかり味・あおさ味)を作って頂きました。



いろいろな味の天ぷらに加え、掘り出したばかりの新鮮な「門真れんこん」の素揚げも作ってもらい、おいしくいただきました。味はあっさりしていて、歯ごたえがサクッとモチっとしており、他の「レンコン」とは一味違うと感じました。

◆参加者の声

- ・貴重な体験と勉強、試食ととても有り難かったです。体験はとても大変でしたが、(門真れんこん農家の)皆様のご苦勞がわかり、有難くこれからも益々学んでいきたいと思いました。
 - ・実際やってみると作業の大変さが分かった。「門真れんこん」はプレミアム品であると実感しました。
 - ・実際食べるのと体験させていただくの親子で楽しめました。
 - ・子供たちが大満足していました。自分で掘った「門真れんこん」の美味しさに感動していました。
 - ・足が沼にはまって、とれなくなったりしたけど、たのしかった。
 - ・めちゃくちゃ泥にはまった。素揚げ美味しかったです。
- なお、当日の様子は、YouTubeチャンネル「もりかどじゃーなる」でご覧いただけます。



もりかどじゃーなる

守口門真で頑張っている方を始め、地域の商店、そして行政も巻き込んで市民目線で地域密着の番組を作り上げている番組。

偶数月は守口門真の施設で収録。毎回ゲストをお呼びしてパーソナリティの道越裕海とのクロストーク。「地域で頑張っていること」「発信したいこと」「お店を紹介したい」「守口門真はこんな街」などをトーク展開。

奇数月は三宅奈緒子の取材力を生かし守口門真の街に飛び出しお店や人を取材。守口門真の今を伝えていきます。

<https://www.youtube.com/@user-jb8un8br2q/featured>

